

22. 地域の防災力を向上させる基本は何か？

地域の防災力は、「地域に住む様々な担い手が連携・協働して減災に取り組むコミュニティの力」（地域防災力向上マニュアル、堺市）と定義しているところもあり、地域に住む人々の防災意識に大いに関係します。防災意識の向上は地域の人々の命と生活を守るための備えとしてたいへん大事なことです。

自然災害は、突発的に発生する地震や、大雨・台風のような少し時間的に余裕のある気象災害があります。災害が発生すると、災害直後は行政などの「公助」が期待できないことはこれまでの経験（1995年阪神淡路大震災、2011年東日本大震災、2024年能登半島地震災害など）でわかっています。そこでまずは自分たちでできる食料や水の備蓄などが必要で（自助）、地域の皆さんとともに、被災された方を救出したり、避難所運営をしたりする（共助）ことが必要になります。

しかし、なかなかこのような備えを完璧に行うことは難しいのが実情です。地域防災力は、個人だけではなく、その地域にある町内会、自治会、企業や学校など様々な組織が連携することが必要です。阪神淡路大震災を経験した堺市の例からご紹介すると、大震災の時に生き埋めや閉じ込められた際の救助は97.5%が自助・共助と言う事でした。これを教訓に、さまざまな取り組みを学校区ごとに行っています。

13年前の東日本大震災を教訓に、リスクコミュニケーションで、いまわれわれがなすべきこと、できることをワークショップ形式で行った催しに参加しました。行政、市民、専門家、メディア、事業者がワークショップで意見を出し合い各グループで発表しました。各グループでは、同じような意見が出て、顔の見える関係、つながりなどがキーワードとして出ていました。地域での防災・減災には普段のお付き合いの中での活動が最も有効と言う事でしょう。各地で取り組まれている事例は、いろいろ参考になりますが、基本は人と人のつながりではないかと言う事でした。事前の準備としても、避難にしても、避難所の中でも、大事なものは人と人のつながりです。この関係性がうまくいくことが防災・減災の基本であり、地域の防災力のみならず、地域の活力を活性化するキーワードではないかと思えます。

いずれにしても、地域防災力の向上は、個人だけでは難しいので、町内会、自主防災組織、企業、事業所などの団体で取り組み、時間をかけてじっくりやるのが大切で、個人の中に芽生えて育っていくのではないかと思います。

最後に、堺市の取り組みをご紹介します。堺市は、1995年の阪神淡路大震災を教訓として、学校区を基本にしたネットワークで地域防災力の向上を図っています。意欲的な取り組みは、具体的なマニュアルで見ることができます。マニュアルは下記のURLで閲覧可能です。

https://www.city.sakai.lg.jp/kurashi/bosai/kyojo/tiikibousairyoku.files/koujo_manual.pdf

(T. K.)